

## 「災害時の危機管理」

### －阪神淡路大震災と台風23号の経験と教訓－

講演者：公益社団法人 兵庫県まちづくり技術センター常務理事  
上下水道部門技術士 百々 順一

講師紹介：講師は1974年兵庫県に入庁以来、下水道16年、上水道12年（阪神淡路大震災）、洲本市都市整備部長（台風23号）、土木事務所長を歴任され、現在は主に流域下水道を管理している兵庫県まちづくりセンター常務理事として実力を発揮されている。技術士も総合技術管理、上水道、下水道、建設、衛生工学を取得され技術者の手本のような方で、自身が二つの大災害を経験されたことを本音で講演されました。（西澤忠城）

#### 1. 阪神淡路大震災上水道対応

##### ①初期の対応

- ・震災の初期はまず、県内、他都市への支援要請を行なった。
- ・給水車の配置計画では、当初は128万個、300万人の配置計画では1ℓ/人・日と考えたが、その後3ℓ/人・日に変更（災害時の訓練が出来ていなかった）。
- ・応急給水の課題  
自衛隊は全国から集まるのですぐには来ない。  
殺到する電話や支援が必要かの問い合わせが多く、被災地での調整が困難。  
民間企業のパフォーマンスもあった。  
全国からの850台の給水車は配置先が決まらなくても、二箇所に集め、その後、給水先を決定。  
医療用水の不足が病院機能を低下させる主要因となる。

##### ②応急復旧

- ・復旧の見通しが立たない時点で、報道機関から見通しを聞かれ苦慮した。
- ・被災自治体の心理は自力での復旧を考えるが、徹夜つづきで「思考能力低下」「頭の中真っ白」であり最適な支援者を決めること。
- ・早期の復旧戦略として、完全断水方式か、流しながら直すのかを決めなければより混乱する。

#### 2. 台風23号被害（淡路島洲本市の状況）

兵庫県では、淡路島上空を通過し豊岡市、氷上町、西脇市、西宮市を中心に広い範囲で大きな被害が発生した。淡路島の洲本市では、ため池が連鎖的に次々に決壊したため洲本川や千種川が氾濫・決壊し3,100棟が床上浸水する被害であった。

##### ①避難指示の困難性

行政として避難勧告や指示を出すべき時に決断が遅れた。避難勧告か指示についても、判断が困難。被災後避難勧告について、マスコミから行政非難。

## ②緊急対応

土砂撤去、ゴミ対策、消毒 伝染病対策、応急復旧、災害査定基準が急がれた。  
災害に対し市民から公務員に対する不信感やうらみが発生。

## 3. むすび（災害時の危機管理について）

- ・災害対応の指揮官としては有能な人が当たり、戦略・戦術をたて、基本方針がぶれないことが大切。
- ・絶望や悲観的になるな。始まったものは必ず終わる。朝の来ない夜はない。黒雲の裏は輝いている。
- ・仕事で殺されることはない。災害時に関係者が自殺することがあるが、たかが仕事ではないかと考えよ。
- ・休養・休息が大切であり、休養は悪ではない。

◎ 講演はパワーポイントを利用して行われました。その内容についてご興味のある方は、講師に直接お問い合わせ下さい。